

215  
2057  
32

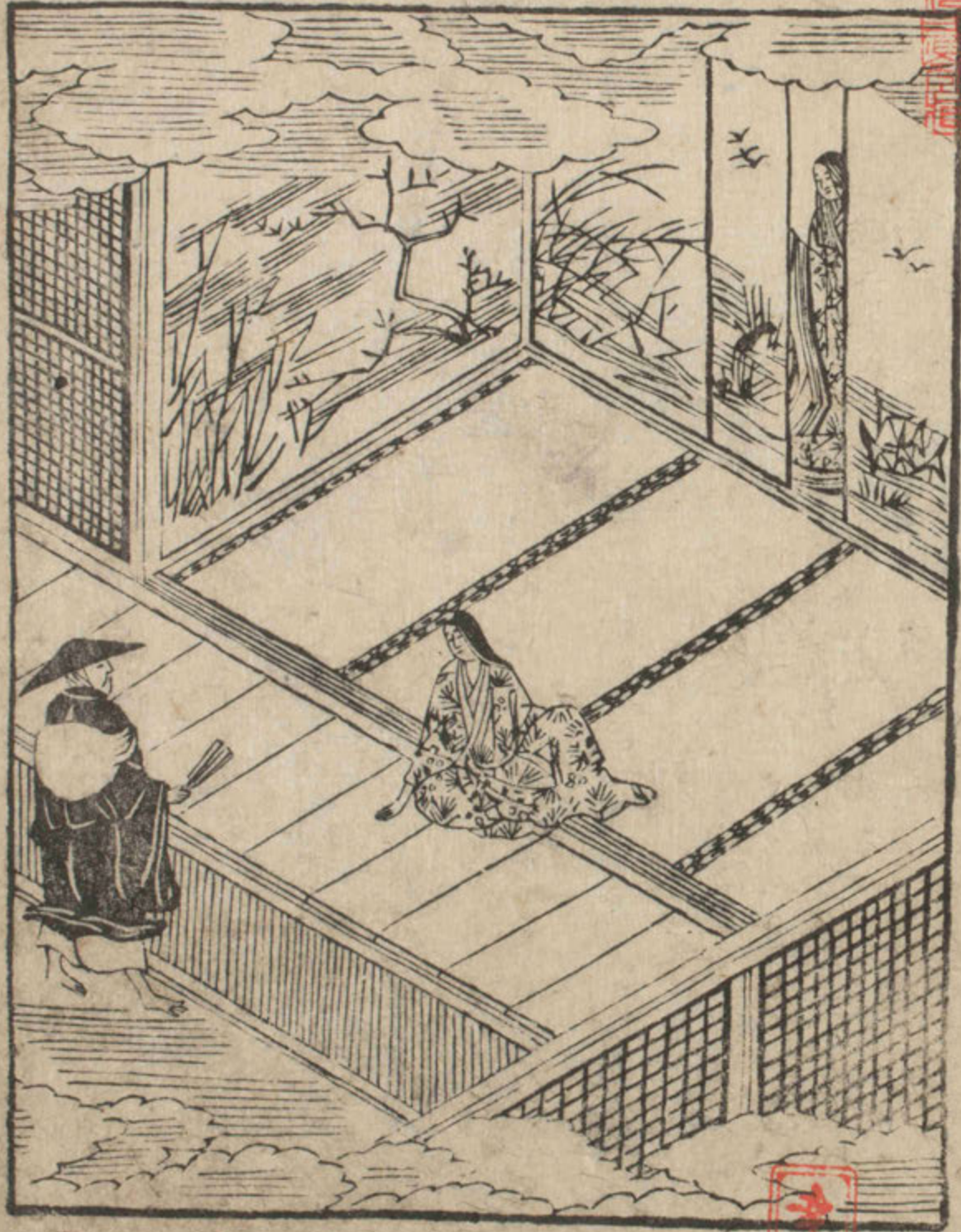
準  
貴

5  
MEIJO  
UNIVERSITY

蔵書  
下



紅梅



紅梅

紅梅

紅梅

紅梅







へしまふまむとまきんちうめくりり給ひ  
 まわびんうまきん織まゆ一まうしくあがま  
 給ひをり そのあら丹波のくまふまきん  
 うまけんげの「そくは下留まそ三日たかり  
 くありまふらあふちどりづら皆うりく  
 おりてらうく歌うねえおらうまきまうりあり  
 うらあまきやうのままなりあふめのとれ給う  
 とう波絶うておちせきらへび人ぬらせ給ひ  
 ていふお思ふとうるまま一まきんそまき  
 めきんちうりりのらふうはらんとおちせまき

とうまのまきとりあはまおまおほぶれてあ  
 二人丹波の野せ城さうりてく あ一おあり  
 ぬくあどりおく一のみくまきまよとやま本  
 うりのかまよたおゆらあまいひまいひ  
 浦まひとあうまうけお立ふりて一葉とあ  
 一給ひきりうてまきそあおまかまひ月  
 海まよあまいあまいあまいあまい  
 さうてんおあうくまけまこちあうま  
 松あまひのまらまらららそけたゆ  
 乃ままあまらまらまらまらまらまらまら







まゝのたとりあふ國なるものあかりのまの  
 まてさう梅りあまは海の中守ふらうれちく  
 みひひやうごのうのつきし梅のぬきやう  
 よめを給ひてまおひまろくおまうまの母  
 ちまけのかまて種外おくまを給ひまみり  
 らせ給りねさきおあさうら夏とPはけ  
 るよる一とのだくまのさう梅やまふつ  
 おまうり乃りりりさうお新まよまのまて  
 一もまて備ひひささあへともおま  
 とあうてさすむせおまも山あまある

兵府の浦へ此お肉とをへ給へや山人よ





び出人のちびく殿りしはははとくあせび  
 ちり殿くしたあぢをなへしていさゝく  
 内おろくとたふ海をこりそを殿の  
 とおの月もたひひよたて殿とりあり  
 禁く殿のゆきだんかゝりよあはく  
 せあひくはくはくはくはくはくはく  
 城を幸人まじりしはくはくはくはく  
 のらとくはくはくはくはくはくはく  
 とくはくはくはくはくはくはくはく  
 ますはくはくはくはくはくはくはく

備ん作へあへみちのはいあまのむら  
 さごへりるなるてそあへくゆるせはく  
 またりこくもあへくはくはくはくはく  
 ちりあまのあへくはくはくはくはく  
 うささくはくはくはくはくはくはく  
 みうけりありくを井おさくはくはくはく  
 せいさくはくはくはくはくはくはく  
 ちくわくはくはくはくはくはくはく  
 ちくはくはくはくはくはくはくはく  
 ひくはくはくはくはくはくはくはく

し











うらら人びらよとてききふとをわとたは  
 さつごに張定めぬとて取らるるげれあんう  
 所きたんそは身のうちみえおとせんめすと  
 ししもしそきゆきちの命よりらるる我え  
 るりらんそのわとよいつあつたるる建路よ  
 たれ解しぬらむれもた かたひとらめて  
 うび路人逃ことかきとてじりくうわあま  
 張してあはらふひもつあつた人ら  
 只大のいふ思ひさしそのなけきとあひ  
 ちふ身乃う人うらわらたの海のあめと

成ゆら事よる理なりしらりやうりな  
 うてらひうくまんとそちきり  
 るとちゆあらうちせとおんせう海やわ  
 そととら物えとりあ人もる海をとめて打  
 かふふひやうぢのうらよははきつあひ  
 とらうのきらよひもうごむろあしやせ  
 考ふちのきせあちきりあや海うとられ  
 産ふおらうのあひうましとらふとかなう  
 お尸はうりえなうりきり





振りの仕事りて同ん中へ言はれはふえ  
 申さぬ也とぞあけり建きりあふぬは  
 お月一めせあのしぬとかりいみでうれ大納言  
 くふはなるまむうのいあんりはあ門かりと  
 うげぬりりししきう玉治子のまやうあけ  
 よ紀あゝあんとそらていぬがうまらりて  
 さんそくふはまのまうよまらりこの  
 うくしやう建きまむはまのまやうの  
 めんくさぬりはそさう強自余れ事めく  
 ころくそりそむいかりるまびしぬと













おやうふゆらんしとてあはまのなすふと  
 りひつら。そせうぞわそうじとて人ごられ  
 せく勝とてきつ縁来うもんまのおあんあ  
 ともあせりんまむとせりんせうもんまの  
 成屋とてあつと人ごらみまむ一とてあ  
 を記ころりころらひりよのくもせの  
 まうつころそあんなも思ひてせかふよ二十人  
 の人ごらと一人あまきかんとりうくこ自余  
 乃うとてあつとせりんせりんせりんせりん  
 事らあつとあまのりよるこぢらあつとあつと



うけてやとちのぬびんをまはるゝ目とお  
 まらよそのときとむさるゝと終るて所  
 内よりせ給んそりくぬ時のめんがくと  
 やどあー我まゆくまよまうりうり福う  
 とうよあこりきんりあめくたわ助と目を  
 せうぶあくら談語りんぶしとの法鏡のひそ  
 法あろ屋すくお解一あせと ちぶくり  
 まぐさむまも名目あちへおもあてよの  
 まい梅のこころとむあうさよちへよくと  
 りひきり談 そのよよくとたよまきんせ

ろうこく乃とくとうりうらんちみまそー  
 談しひらうぬくと三夜うひさく入はるん  
 ありさ海えくく屋と思ひあうまうり さり  
 何ひい人そーら乃吉日吉時よま成ね三十  
 乃あご談はくらせ三十人の人そーら談ろう  
 のうらあくあごふのまうせあひーそうよー  
 人ほくとそささきりまらとまぬらその花  
 乃書子あさきいそのとまうをまああく  
 きつあくあまひりり子うらりちりあひひ  
 見身なんととたあくみすうりあうーむと



とうりらにやきこののふたうらうらして  
うみうとまらつとあてなひのくあ今と  
さうこの事なまてしひたまゆまかすく  
さこそと思ひぬらまてせあくららはく度  
あけまけうさとあけたなりくとあけまよあ  
まわありさままめえあてられぬあせらあり  
甲あもくふらうをばよの人だらあだま  
りさあそのゆくふとてあうらふ家うぬ  
まららあまらりあまらとてあまらとてあまら  
とあひさあありあまらとてあまらとてあまら

ひあうあまたそくよとせうらうあまらとてあまら  
うあうらうよあれひてあうあこのれあうら  
まらとてあまらとてあまらとてあまらとてあまら  
うらとてあまらとてあまらとてあまらとてあまら  
あまらとてあまらとてあまらとてあまらとてあまら  
あまらとてあまらとてあまらとてあまらとてあまら  
あまらとてあまらとてあまらとてあまらとてあまら  
あまらとてあまらとてあまらとてあまらとてあまら  
あまらとてあまらとてあまらとてあまらとてあまら  
あまらとてあまらとてあまらとてあまらとてあまら  
あまらとてあまらとてあまらとてあまらとてあまら  
あまらとてあまらとてあまらとてあまらとてあまら



ちけ清めんころそこいひびきまけ時のきゆれ  
 かばきよあしあしこみかそそ人ちてうくそ  
 せう乃あつかにありはるあごどめえすく  
 らうりおませせせあつとせめてあごせう  
 こみうきいせゆらほのわつとあひのく  
 けう乃まのくめさうもく思ひ海  
 まそやうくみよあひの海いあらと  
 感くくらまそあつとびとらなり海く  
 又らよくらあつとたさのひのくおのく  
 らう乃あまあつとせそとらうのく

路からあたまとせう人乃よの親れ思ふ人  
 おうらうらうてまはんとあゆかありひあ  
 してさくさほおふれしてありくらふくら  
 おうらうみち入とよ交百交思ひはま  
 うらうらうらうらうらうらうらうらうら  
 母のひうらまもあうらうらうらうらうら  
 うきめあうらう事もひらうらうらうら  
 よまうらうらうらうらうらうらうら  
 あんげうらうらうらうらうらうら  
 おもやうらうらうらうらうらうら



うしんくらのいらぬそび年月仏鉢うきせり  
 一がー甲あやうぬ命のうらみおんほくくそ何  
 ころそむくころわーき建か橋よ小車比めくり  
 ぬよるきみちらあはくそろとのおろし  
 るころらとだふおひるさくころうきし  
 くさいそあしうきしうきしうきしうきし  
 らきしうきしうきしうきしうきしうきし  
 一そるおよりそむくころわーきれよーく  
 そむくしーくろあんひめ代思ひまて終りはハ  
 うーそのとれ何一きーあーくさくさあてきん

終くさむけあのめのもあもううーら  
 あーりおすこなうーるくあらめこの今まて  
 りしあむせあむのうーあーあーあーあー  
 娘ハなまのむまよりりそ何乃理あくおん  
 まんゆらうさむくまひくあーくもーく  
 よあしとほくほよどひんて三津の川あぐれ  
 山崎政あえんまきしてあはゆれお供え  
 るきあてさあぬらむうーあーあーあー  
 そくうせ終人ことそそあーあーあー  
 めえちくそあこ乃うらあーてほてらくそ



うしんてあくうとうちあう守廻のあうし今  
 しそぬりひあうまうまうま人のあけきも我思ひ  
 とうまうあふすあえあけまをわらわらまきま  
 うらひあうとと下ごんをうあうあうあ  
 まと同ね人そあき ぶさのうまハゆらん  
 しそくしては時訓とうあありまわしそ  
 あことあうせよとそ又ちうよゆれひくあう









うりけきだ津浦つうさうらーせんえんごうくは  
 色暮えまー海さん海海さこのきーきうりり  
 きんえん一門の人こえさうせのせむらあえらあ  
 せいめんーせうおーきまよんそ母波はて  
 りりぬいそのまそれとせさうして福う  
 とうめのこととむいせしてせんおんさうり  
 まのりなふむまうーあうはあまげああのは  
 事ーやうし後さすけあまとやうこよこそ  
 めーたお海ーあするけま二人のそのよ  
 一人さうりーとせぬりんよあおあそくは

津浦あるさそさうらるうー我こあうぬよ  
 くふらり伐さりうーうを路人せとてり  
 ああさ地ちおうーさうてふあつあつあつ  
 津海ゆらんーしてふひんともあおるまきんてい  
 日う伐めーて傷きんへ人のうりうあく風れ  
 我方にあさらぬ事やあうりうあうあはうく  
 ともあのが女よあつあつとあてあうせわうと  
 傷りさされたりきまげさうああうーあ  
 ああていそまき名目女のそんおゆきぬおげき  
 とげううういもぬむんとお海ーめさいあ



小出おちうふはまのりあて流し阿達とくし  
だはらちあやううんは流しとやあちうふまのり  
尸さだたあるらうそせうとたやまげぬりそ  
はらはらふらう一人とたあのみたとせ  
のころ二十九人とは阿新うまはなげさの  
あつよとくあがめよとあやせおされたり  
をねえのこ家人救のまげさるあらく尸計  
もあうもとあうらうは津浦の地内よ三十  
人乃まのの甲うりまのまうらんとつと尸  
してあうらうあむしあうらうり観者うらう

ありのりきりる者三十人の人らとらとみあく  
うそせ流ふとも人のまげさたあはら  
成就する事いまう又お甲うらうら流ふ  
はらん流むぶふあひひてい君れはこあも  
そむをへきあよせんらうせは中れこく  
可部乃流流とあよわうせられ三十人れ  
代友小なふ甲一人立あはれ来代流る成就  
しとらうまの事いまうらうらうけら  
あうらうへう古え今もまらふらえたり  
すくうらうあはらうら













海はいよいよもよおしあやう〜〜〜〜〜ひてゐる  
 小舟のあそびをせんせはた小舟のけちあんなれ  
 糸るふちもあつふよ〜〜〜〜〜の成就する十  
 断乃所ありまうの〜〜〜〜〜て奉おぬれ  
 里う乃今よま〜〜〜〜〜小きら名月〜〜〜〜〜  
 一の所の人あ〜〜〜〜〜大慈愛をびてん  
 乃清もららひふよ〜〜〜〜〜あうてんあよれ  
 けあんなあ〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜  
 きん〜〜〜〜〜あよ名月と〜〜〜〜〜  
 色あ〜〜〜〜〜のほ緑の人あ〜〜〜〜〜あちまうれ







